

## 現場管理者の「異常な対応」に対して申し入れ！

JR東海労新幹線地本は、相次いで起きている現場管理者の「異常な対応」に関して、新幹線鉄道事業本部へ申し入れを行いました。

一つ目は、昨年12月12日に東京第二運輸所に所属する組合員の定年退職を前にした最終乗務に対して、家族・友人・組合員たちが長年の労をねぎらう為に東京駅ホームで到着を出迎えようとしたことに対して、じつに8名もの管理者が立ちはだかり妨害をしたことに対する抗議の申し入れです。このような管理者の行為は、この間JR東海の新幹線の安全安定輸送を培ってきた大先輩に対して、まったくその労苦をねぎらうという意思がなく、思いやりのかけらも「会社の暖かい愛」も何もないもので、けっして許されるものではありません。また、安全安定輸送の確保は家族や社員どうしの絆と支えあい的重要だという安全風土を否定するものであり看過できません。

## 管理者よ「連絡の徹底は安全の確保に最も大切である」だぞ！

二つ目は、昨年12月10日の深夜の作業中に発生した、東京仕業検査車両所における「連絡なしの突然の架線・き電停止」に対する解明のための申し入れです。

この事の原因はおろか、発生した事についても未だ社員には「他山の石」として報告がされていないが、たぶん車両所管理者（検修当直・列車）と電力所の相互の連絡体制が悪かったのではないかと私達は推測します。さらには、「き電停止」終了後、「き電再開」の報告も第二検修庫現場の外勤には来ていない有様なのです。第一検修庫では、「第二検修庫で『EGS』でも誤投入したのか？」と話していたそうです。当然、第二検修庫でも「第一検修庫で『EGS』を入れたのかな？」と言っていました。このように重要な連絡が抜け落ちたばかりに、お互いの検修庫での事故を想定してしまうなどの余計な混乱を引き起こすところでした。

会社は連絡体制について、車両所だから電力所だからという変なこだわりを捨て、安全作業を確保するために『連絡の徹底』の重要性を現場管理者に再指導すべきです。

私たち社員（作業員）の命は時として管理者の『連絡不備』によって脅かされる場合があります。東京の車両所が三車両所になって連絡体制が悪くなったと言われていることを、各々の車両所の管理者は認識しているのでしょうか？

**まさか、自分のことではないから「まっ、いいか」？では私達の命がいくつあっても足りません！！**